

只見町のブナ林の未来を探る
ユネスコ・エコパーク講演会

只見町のブナ林とユネスコ・エコパークの可能性をテーマに、ユネスコ・エコパーク講演会が10月31日に明和地区センターで開かれ、約70名が聴講されました。講演は3名の講師により行われ、はじめに独立行政法人森林総合研究所の鈴木和次郎氏が只見のブナ林の魅力について、次に町ブナセンター主任指導員の新国勇氏が只見の森と人々の暮らしと題し講演されたあと、横浜国立大学准教授の酒井暁子氏がユネスコ・エコパークについてスクリーンを使用し説明されました。

ユネスコ・エコパークとは生物圏保存地域のことです。陸上・沿岸・海洋生態系の保護区となり、生物多様性の保全と人間生活の調和や、地域社会の持続的発展を実現する場として位置づけられ、様々な自然保護活動などが展開されます。現在、世界で109カ国(564カ所)が指定地域となつています。

講師の酒井准教授は、只見のブナ林は大変すばらしく、指定の条件はほぼ満たしていると笑顔で話されました。



▲ユネスコ・エコパークについて学ぶ参加者

地域の子育て力の向上を目指して
子育て支援講演会

講師に本郷幼稚園(会津美里町)の元園長で会津美里町教育委員の鶴賀イチさんを迎え、「かつて子どもだった大人たちへ、やがて大人になる子どもたちへ」をテーマに、子育て支援講演会が11月9日、季の郷湯らりなどで開かれ、子育て中のお母さんなど45名が出席されました。

鶴賀さんは、経験談を交え子どもたちが話す言葉には、子どもたちの考えや思い、願いなどのメ

ッセージが込められており、それについてや、自分の子どものことを思い出して子育てをしてほしいことなどを話され、子どもは未来、子どもを育てることは自分たちの未来を育てること、地域が結集して子育てをし、只見町の将来を考え、子どもたちを育てていくことが大切と講話されました。



▲子育てのポイントなどを講話される鶴賀イチさん

全線開通に期待高まる
八十里越九号トンネル貫通式



▲貫通を喜び目黒町長(右から3人目)

只見町と新潟県三条市をつなぐ国道289号・八十里越道路の九号トンネル(3,173m)が11月7日に貫通し、同日に現地で貫通式が行われ、目黒町長や五十嵐拓町議会議長など関係者が出席しました。

式では目黒町長はじめ関係者が発破ボタンを押し貫通を確認しました。その後、通り初めの儀や鏡開きが行われ、目黒町長の音頭で乾杯し、全線開通への期待を高めました。

貫通点で目黒町長、五十嵐拓町議会議長、国定勇人三条市長らが万歳三唱を行い、記念すべき貫通を祝いました。

九号トンネルは全11あるトンネルのうち最長です。目黒町長は「両県の皆さんが一致団結し行動を起こし、一日も早く全線開通するよう尽くしたい」と思いを話しました。また、通り初めの儀には只見中学生13名も参加、下田中学生と記念撮影をするなど交流を深めました。

百歳賀寿おめでとうございます

皆川コイクさん(長浜)が満百歳



▲賀寿を受ける皆川コイクさん(右)

11月15日、長浜の皆川コイクさんが満百歳の誕生日を迎えられ、同日に知事賀寿贈呈式が介護老人福祉施設只見ホームで行われました。

はじめに小野保順南会津保健福祉事務所長から知事賀寿と記念の木杯が贈られました。続いて、久保副町長、五十嵐拓町議会議長、五十嵐辰男只見町社会福祉協議会長、星素行只見町老人クラブ連合会長、目黒竹市只見第2老人クラブ会長らから記念品などが贈られました。また、孫の馬場有里さん、渡部茂孝只見ホーム園長がお祝いの花束を手渡しました。コイクさんの長生きの秘訣は、好き嫌いなく食べること。とのことでした。

ノルディックウォークin
ただみ(健康な歩き方教室)
が11月16日、ただみ・ブナ
と川のミュージアムや青少
年旅行村いこいの森周辺を
会場に開かれ、10名が参加
しました。

参加者は、講師の指導を
受けた後、ブナと川のミュ
ージアムをスタート、青少
年旅行村いこいの森を回る
約2・5kmのコースを30分
から40分かけて歩き、ノル
ディックウォークを体験、
さわやかな汗を流していま

した。ダイエット効果もあると
いうことです。



▲気軽に汗を流せるノルディックウォーク

ストックを使って気軽にウォーキング
ノルディックウォークinただみ

元気な歌声に、迫力の演奏

只見町小中学校音楽祭

11月12日に只見中学校体育館
で行われた「只見町小中学校音
楽祭」には、只見小3・4年生、
明和小3・4年生、朝日小3・4
5年生と只見中全校生徒が参
加、小学校は合唱と合奏を披露
し、中学校は全校生徒と特設合
唱部の合唱を披露しました。元
気に楽しく歌う小学生、迫力あ

る演奏で楽器を奏でる合奏、そ
して清らかで透き通るようにピ
ュアな歌声が響き渡った中学生
の合唱、いずれも完成度の高い
合唱と合奏の連続に、来場され
た保護者らからは感動と同時に
大きな拍手が送られていまし
た。練習の成果がすべて発揮さ
れたすばらしい音楽祭でした。



▲うつくしい歌声を響かせた只見中特設合唱部の女声合唱

【東京都民が只見で農業体験 秋野菜の収穫作業】



収穫した野菜を手に笑顔の参加者▶



▲とれたて野菜を思わず「ガブリ」

東京都内在住の7名の方々が、11月17日に、大倉地区の約3・5アールの畑で秋野菜の収穫作業を体験しました。この事業は大倉区が福島県地域づくり総合支援事業の補助を受け行われたもので、8月18日に行なった種まきから始まり、10月5日には除草作業を行ないました。参加者は、ハクサイやダイコン、カブなど計8種の秋野菜を地元農家の方のアドバイスを受けながら収穫、慣れない作業に汗を流していました。収穫したばかりのダイコンをその場で味わった参加者は「甘くておいしい」と感想を話しました。この取り組みは来年も行われる予定です。

【第39回只見ふるさと雪まつり 第1回実行委員会】

11月18日、只見地区センターで、第39回只見ふるさと雪まつり第1回実行委員会が開かれました。

実行委員長の目黒町長は、あいさつで「今日まで企画実行委員会を3回開催し、まつり内容も煮詰まったと思います。これから降雪の時期になります。す

ばらしい雪まつりを実施していきたいと思います」と述べました。今年の大雪像は「タージ・マハル」で、雪まつりキャッチフレーズは「あなたに会える雪まつり」です。このキャッチフレーズは町民に公募し、石津伸介さん（楢戸）の作品が企画実行委員会で選ばれ決定しました。

只見の巻物が国立博物館に展示

只見町が日本一の、巻物の多い町であることは有名です。この度、千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館の民俗展示室に只見町の巻物のレプリカ（複製品）が常設展示されることになりました。展示予定の巻物は、蒲生・五十嵐崇家の番匠巻物と新町・新国志摩夫家の屋根屋の巻物の二点です。

ここでは今年から現代展示室で田子倉集落の模型が展示されていますが、今回の巻物は平成25年3月の改装時に展示されるということです。担当の同館・小池淳一准教授は「日本の職人文化の伝統を継承する重要な資料として展示したい」と話しておられます。



▲巻物の撮影を指導する小池先生

親子料理教室

10月7日に只見保育所で、19日に明和保育所で、20日には朝日保育所で、親子料理教室が開かれ、保育所で収穫された野菜を使い「さつまいもとしめじの秋カレー」を親子で作りました。また、すべての食材には「いのち」があり、そのことに感謝の気持ち忘れずに食べるといふ食の大切さや命の大切さについても学びました。



▲おいしいカレーができるかな？



▲あいさつをする目黒町長